



TITLE:

# 複式簿記法の傳播

AUTHOR(S):

岡本, 愛次

---

CITATION:

岡本, 愛次. 複式簿記法の傳播. 經濟論叢 1938, 47(5): 736-741

ISSUE DATE:

1938-11-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/131165>

RIGHT:

經濟論叢 每月一日發行  
第四十七卷第五號昭和十三年十一月一日發行  
大正四年六月二十一日第三號郵便物認可

# 東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第十四卷 第五號

昭和十三年十一月一日發行

## 論叢

勢力説に於ける存在拘束性……………文學博士 高田保馬

經濟學の發展と新日本經濟學の性格……………經濟學博士 石川興二

## 時論

綜合リンク制について……………經濟學博士 谷口吉彦

支那法幣の發行準備及價值維持政策……………十龜盛次

## 研究

朝鮮の水産業……………經濟學博士 蟠川虎三

滿洲建國精神と協和會の使命……………經濟學士 中川與之助

## 說苑

經濟學の悲哀……………經濟學士 中谷實

封鎖貨幣制度下の國際的再保險……………經濟學士 佐波宣平

複式簿記法の傳播……………經濟學士 岡本愛次

大量觀察と大數觀察……………經濟學士 有田正三

## 附錄

彙報

外國雜誌論題

(禁轉載)

## 複式簿記法の傳播

岡本愛次

以下複式簿記法の普及して行く過程を、比較的に秩序立てて研究せる *de Roover* <sup>x)</sup> に頼りつゝ又かたはら *Penndorf* <sup>xx)</sup> を参照して、概観して見たいと思ふ。

## 一

複式簿記法なるものは十四世紀の初め頃のイタリヤに於ける資本主義の發展と大商社會社の形成を促した經濟狀態にはぐくまれて生じ來り、<sup>1)</sup> 先づベニスに於てその完成せる姿に於ける適用を見出すものであるが、そこより十四世紀の第二半期並に十五世紀中に全イタリヤに弘がつて行つたものである。<sup>2)</sup> 然し恐らくフランス地方を除いてアルプスの北に於ては殆ど知られて居なかつたと思はれる。その地方の人々は多かれ少かれ經驗のまゝに記帳して居たものである。<sup>3)</sup>

複式簿記法の普及は全世界に大きな反響を惹起した二事件に依り間接的には促進せられた。彼のアメリカ大陸の發見はその一である。それは世界商業の斧鐵を

x) R. de Roover, *Aux origines d'une technique intellectuelle : la formation et l'expansion de la comptabilité à partie double*, Mai, 1937, p. 278-292. ××) B. Penndorf, Luca Pacioli. *Abhandlung über die Buchhaltung 1494*, Stuttgart, 1933 p. 51-p. 82. 特に p. 68-p. 79.

1) R. de Roover, *Aux origines*; ouv. cité, mai, P. 278

2) R. de Roover, ouv. cité. mai p. 270-278 を参照せよ

大西洋の沿岸に置き換へることに依つて、イタリア人の制覇權を奪ひ彼等の優越性に終末を告げしめた。然しイタリア人に次いで世界商業の覇權を繼承せる人々（イスパニヤ、ポルトガル、オランダ人）も、一世紀以上にもわたつてその優越性と有効性を經驗的に證明せられた複式簿記法を採用することに依つてのみ、商業運動の先頭に立つことが出来たのである。他國で實施せられて居る單式簿記法に對してはるかにすぐれて居るイタリアに源を發する複式簿記法、かくてイタリア式簿記法なるものはあらゆる所に弘がつて行つたものである。それはかゝる簿記法のみが十六世紀初頭に於ける歐洲經濟の發達より生ずる新しい要求に應ずることが出来たからである。間接に複式簿記法の傳播を促進した第二の要素なるものは印刷術の發明であつた。それは簿記書の著者をして容易に多數の讀者を獲得せしめたものであつた。

一層直接的なる諸要素の中イタリアの諸都市に於て數學と簿記法とを教授した算術教師 (maestri d'abaco)

#### 複式簿記法の傳播

の役割を過少視してはならない。<sup>4)</sup>ベニス<sup>4)</sup>は實にH・ジョーフェキングの云へる如く商業の高等學校であつた。この算術教師はその識見の故に特に噂が高かつた。彼等の授業は主都に於て商業の見習をなして居る若い外人に依り聽講せられたものである。誠に“Summa”に挿入されて居る簿記法の最初の論文は、學校に於て教へて居る手稿にさへ溯るのである。ドイツの“Rechenmeister”英國の“schoolmasters”並びにオランダ地方の學校教師は皆イタリアの maestri d'abaco に應ずるものである。簿記法の外に彼等は一般に數學並びに活ける言葉特にフランス語を教授した。彼等は又内職に一又は多數の商人の帳簿を記帳することに從事して居た。多くの者、殊に Valentin Menner の如き立派な數學者であつた。かくて de Roover の云ふ如く、<sup>5)</sup>學校教師の役割はその著述に依り、且又口述に依り果した影響の故に無視出来ないものである。彼等は複式簿記法の普及に貢獻したのみならず、商業教育の建設者と考へるも誇張ではないのである。

3) F. Besta, La ragioneria, t. III, 1922, p. 349.

4) F. Besta, La ragioneria t. III, 1922, p. 344; Brown, A history of accounting and accountants, Edimbourg, 1905, p. 141.

5) R. de Roover, ouv. cité, Mai, p. 291.

6) G. A. Tagliente, Considerando io Joanni Antonio Taiente, quanto é necessaria cosa a diuersi Mercatanti.....occió che sapino tenere ordinatamente el detto

## 二

以下各國に於ける複式簿記法の傳播を、簿記書或はその著者に頼りつゝ、極めて簡単に考察して見たいと思ふ。<sup>x)</sup>

イタリア Luca Paciolo が有名な著書 “Summa de arithmetica, geometria, proportioni et proportionalita” を著述したのは一四九四年であつたが、それに應じて簿記法に關する一系の著作が出現した。一五二五年 Giovanni Antonio Tagliente が二冊の小冊子<sup>9)</sup>を著し、Girolamo Cardano も又 Paciolo に倣つて、算術・幾何に就いての彼の著作の一章を簿記法にあてた。一五四〇年 Domenico Manzoni が *Quaderno doppio* <sup>8)</sup>を出したが、次いで十六世紀の終り頃 Alvisé Casanova, Angelo Pietra が著述した。一四五八年に書かれたのであるが、一五七三年にやつと出版された Benedetto Cotrugli の著書<sup>9)</sup>も忘るべからざるものである。

ドイツ 最初の簿記書として Heinrich Grammatikus (一五一八年出版) Johann Gouliieb (一五三一年並びに一五

四六年出版) Erhart von Ellenbogen (一五三七年出版) の著書が存在するも、いずれも代理人簿記 (*Système de facteurs*) と稱せられるものに關するものである。

複式簿記法をドイツに移植した榮譽は一五四九年マツオーニの翻譯をあらはした Wolfgang Schweickert<sup>10)</sup>に歸せられる。次いで一五五二年 Sebastian Gammerschneider<sup>11)</sup>が、十六世紀の終りに Passchier Goessens<sup>12)</sup>が著作した。十七世紀に到ると、より注目すべき諸著作に出會ふに到る。

印刷されたもの以外に商業簿記を取扱つて居る二三の手稿を述べる。最も興味あるものは Mathäus Schwanz に依り書かれた標準簿記法 (*Musterbuchhaltung*) である。アウグスブルヒの文庫に保管されて居る手稿は、所謂代理人簿記に關するものである。又ニュルンベルヒで發見せられ Johann Neudörfer に歸せしめられる手稿は、その説明の明瞭なることで光つて居る。

オランダ 簿記書として先づ第一に示す可きは、妻の Anna Swinlers が一五四三年出版するに決した Jan

conto del suo libro Vgnolo come seguendo più oltra uedrete la regola sua, Venedig 1525.—Consideranto.....libro dopio..., Venedig 1525.

x) 十六世紀に於けるイスパニヤ、ポルトガルの經濟的優越よりしてこの兩國に關する考察は不可缺であるが、史料はポルトガルに於ては何等なくイスパニヤに關しても殆ど無いと云つて良い位で吾々は残念ながらイベリヤ半島の考察を割愛せざるを得ない。

Ympyn の著 “Nieuwe Instructie”<sup>13)</sup> である。それは間もなく各國語に翻譯せられた。Jan Ympyn の繼承者はドイツ人たる Valentin Menner である。彼は四冊の書物を著したが、最初の二冊は代理人簿記に關するものであり、一五六三年並びに一五六五年に出版されたもののみが複式簿記法に關するものである。複式簿記書は次いで Barthélemy de Rentenghen (一五九二年出版) 等に依り著されたのであるが、又 Nicolaus Petri Davenrentiens<sup>15)</sup> (一五九五年出版) Léon Melenna<sup>16)</sup> (一五九〇年出版) に依り内容の進歩がもたらされた。他の重要な著者は Simon Stevin であるが、彼の著書はその獨創性と見界の深さに於て注目さる可きである。

イギリス 複式簿記法の最初の著述は Hugh Ollis-  
castle (一五四三年出版) に歸せしめられるのであるが、何等その複本が発見せられず、表題のみが知られて居る。<sup>18)</sup> 一五四七年先述の Jan Ympyn の著書が英譯せられ一五五三年 James Peele<sup>19)</sup> が著述した。Peele 以來英國に於てはオランダの簿記書の著者の影響が大であつ

た。John Carpenter は一六三二年オランダ人 H. Wavinghen van Kampen の著書を翻譯し、十七世紀の最も秀れた英國の著書 Richard Doffone もステービン其の他のオランダの著述家の影響を免れなかつた。フランス 十六世紀に國際的取引決濟室の役割を演じて、あらゆる國の銀行家を集めて居たりヨンのメツの異常な繁榮にも關らず、商業簿記の著述は一五六七年の Pierre Savonne<sup>20)</sup> のそれまで待たねばならなかつた。Savonne の後繼者は Martin Fustel で一五八八年の著書に於て簡單に簿記法にふれて居る。

これら最初の簿記法の著者にあつては勘定理論を求めも無駄である。<sup>21)</sup> 彼等の著作は敘述的實踐的性格を有して居るものであり、現實に商人に依りに行はれて居るがまゝに複式簿記法を敘述するに止つたものである。實習が重要な地位を占めるのもそれに由來するものである。屢々選ばれた諸例は純粹に假定的のものでなくて、現實に存在して居る場合を對象としたものであつた。<sup>22)</sup>

- 7) G. Cardano, Practica Arithmeticae et Mensurandi singularis, Mailand 1539.
- 8) D. Manzoni, Quaderno doppio col suo giornale.....secondo il costume di Venetia, Venedig 1540.
- 9) B. Cotrugli, Della mercatvra et del mercante perfetto, Venedig 1573.
- 10) W. Schweicker, Zwifach Buchhalten, sampt seinen Giornal....., Nürnberg 1549.

十六世紀の簿記法の著者中 Simon Stevin 以外の殆ど總ての人の簿記書に於ては勘定の締切は物足らぬものであり、その残高表は主に記載の正確性に關する統制の手段である。かくてそれは試算表に過ぎないものであり、簿記以外の財産目録の與件を以て、元帳残高と照し合はせて訂正することは問題ではなかつた。それはどうしても吾々が現實に決算貸借對照表と呼ぶものと同一視され得ないものである。更に簿記法の著者が述べて居ること並びに實際から知る所に依れば、残高表は偶にしか作られなかつたものであり、そしてそれも一般的には元帳が充實され新帳簿を初めねばならなかつた時にのみに限られた。財産目録は商事會社に於て明らかに、法律の規定に従ふ場合であれ會社契約期間の延長或は解散の場合であれ、一層嚴密に作製せられてゐた。Simon Stevin のみかはつきりと毎年締切ることをすゝめ、且締切日に於て積極並びに消極の状態の表即ち財産目録の作製を規定して居る。然し彼は先覺者であり彼の例は同時代の人に依り追從されなかつ

た。十七世紀に於てもなほ簿記法に關する著述はこの點明確のものではなく、勘定締切後の残高表は、決算貸借對照表と試算表との中間的なものに止つて居た。

## 三

以上に於て、簿記書を通して複式簿記法の傳播の狀態を一應眺めて來たのであるが、簿記書そのものが實際に行はれて居る總てを包含するものでなければ、又豫見するものでもないことは云ふまでもない。かくて十六世紀に於ける商業簿記の發展程度の正確な觀念を得るためには、同様にその時代の勘定帳簿を参照しなければならぬ。不幸にしてこれは中世紀に於けると同様に人々の注意を惹かなかつたのであるが Pennant, de Roover その他の人々の調査に依れば、複式簿記法の一般化はドイツ並びにオランダ地方に於ては、十六世紀の第二半期間になしとげられたと考へられる。之を例へて見るとアントワープの Affailli 家の帳簿は Christophe Plantin から出たる仕譯帳をそなへた元帳と共に、Luca Paciolo が述べて居ると同一の形式で記

- 11) S. Gammersfelder, Buchhalten Durch zwey Bücher nach Italienischer Art und weise.....Danzig 1570.
- 12) P. Goessens, Buchhalten,...nach arth und weise der Italianer..., Hamburg 1594.
- 13) Jan Ympyn, Nieuwe Instructie ende Bewijs der looffelijcker Conten des Rekenboeks....., Antwerpen 1543.

帳されて居る。Plantin<sup>24)</sup> に於ては、バヴァリヤに於ける銅並びに銀鑛山を開發する會社に<sup>25)</sup>於けると同様に、産業簿記の原理の適用の試みがなされて居るが、これは實踐がある方面に於ては理論的著作より一層進歩して居たことを示すものである。

要するに複式簿記法なるものは中世イタリヤに最も早く開花した資本主義的な經濟活動にはぐくまれて現れて來り、<sup>26)</sup>かゝる經濟活動の諸外國への發展と共に傳播して行つたものである。簿記書を通して見たる複式簿記法の傳播は十六世紀の前半期の終りから先づオランダ・イギリス・ドイツに始まり、稍々遅れてフランスにも及んだと斷定されるのであるが、複式簿記法採用の一般化はドイツ・オランダに於ては十六世紀の第二半期間になしとげられたと考へられる。

- 14) V. Mennher, Buechhalten, kurz begriffen durch zway Buecher, Antwerpen, 1563. *Practique pour brièvement apprendre à ciffer et tenir livre de comptes*, Antwerpen, 1565.
- 15) N. P. Daventriensis, Boekhouwen op die Italioensche maniere, Amsterdam 1595.
- 16) L. Mellema, Boeckhovder nade conste van Italien, met tvvee partyen, als Debiteur ende Crediteur, Amsterdam 1590.
- 17) De Vorstelick Bouckhouding in Domeine en Finance extraordinaire op de Italiaensche wijze が著書 *Wisconstighe Ghedachtenissen*, Leyde, 1605 の一章をなす。
- 18) Here ensueth a profitable treatyce called the instrument or boke to learne to knowe the good order of the kepyng of the famouse reconyng called in latyn dare et habere, and in englyshe, debtor and creditor....., London, 1543.
- 19) J. Peele, The maner and foume how to kepe a perfecte reconyng, after the order of the moste worthie and notable accompte, of debitour and creditour....., London, 1553.
- 20) P. Savonne, Instruction et manière de tenir livres de raison ou de comptes par parties doubles, Antwerpen, Paris, 1567. (なほ上述の著者著書に就いては Penndorf, Luca Pacioli, ouv. cité, p. 158 et suiv. の文獻参照)
- 21) Littleton, *Accounting evolution to 1900*, p. 41.
- 22) 之を例へば A. Weitnauer に依れば Matthäus Schwarz の標準簿記法に於ける諸例の如き假定的のものでなく實際に行はれた諸取引に關係して居るものである。(Alfred Weitnauer, *Venetianischer Handel der Fugger. Nach der Muster buchhaltung des Matthäus Schwarz*. München 1931.
- 23) J. Denucé, *Inventaire des Affaitadi, banquiers italiens à Anvers de l'année 1568*, Anvers, 1934, p. 83.
- 24) R. de Roover, *Coupd'oeil sur l'histoire des comptes en Belgique depuis le moyen âge jusqu'à la révolution brabançonne*, dans *Revue belge des sciences commerciales*, 13<sup>e</sup> année, 1932, p. 6687.
- 25) Penndorf, *Buchhaltung in Deutschland*, p. 92 et suivi.
- 26) 他稿“複式簿記法の形成過程に就いて”参照